



諏訪湖通信73号

令和6年7月22日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖初!! 「湖上プロレス」開催 (カフェ LAKEHOOD OKAYA)

レイクフードオカヤです。去年の6月中旬に開業し、お陰様で1年が経ちました。6/15-16で1周年イベントを開催しましたのでご報告いたします。レイクフードオカヤは湖上の施設として、「新たな湖上体験」をテーマとしております。1周年イベントを通じ、これまでやったことのない新たなイベントとして、信州プロレス様のご協力のもと湖上プロレスを開催しました。入場曲が鳴り響く中、レスラー達は観客のいる桟橋を歩いてリングへと上がって行きます。揺れる台船上のリングでゴングが鳴り、楽しいマイクパフォーマンスを交えながらの試合開始となります。リングを取り囲む桟橋、台船上、カフェ内、展望デッキ、岸からの観戦。熱戦を繰り広げるリングの背景には、諏訪湖越しの八ヶ岳。コミカルだったり、華麗な技を披露し、会場のあちらこちらから笑いと歓声の絶えない湖上プロレスとなりました。今後も新たなイベントを通じて諏訪湖をこれまでよりもっと身近に、更に愛着を持っていただけるきっかけになればと思います。

👉 (開催の様子)



子どもの夢実現に向けて～人工なぎさ(岡谷市浜)を再整備しました (6/9, 16, 23, 30, 7/7)

叫び ～すわ湖で水遊びがしたい～

『みなさんは、諏訪湖で泳ぎたいと思いますか? 「泳ぎたい」と思う人もいません。今から話す事は、私のおじいちゃんが行動している話です。おじいちゃんが行動したのは一枚の絵からでした。その絵には「すわ湖で水あそびがしたい!」と10年前前に当時の長地小4年2組の子ども達が諏訪湖ハイツに貼ってくださり持ってきたものです。その絵におじいちゃんが気付き、子ども達の夢を叶えたいと「あってもいい夢工場」というグループを立ち上げました。

子ども達の夢を叶えるために大人達が協力しながら実現させていくグループです。私は諏訪湖で泳ぎたいと思いません。しかし、海がある県へ行くのも車で移動しないといけないので、つかれたりしてしまうので、できれば身近で遊べる場所があればいいなと考えました。私もイベントに参加したことがあり、おじいちゃんの話によると、昔は泳いだりスケートも出来ていたそうです。今の子ども達は泳げないのがかわいそうと思い、泳げたり水あそびが出来るようにさせたいと言っていました。

後、私はぎもんをいただきました。それは、なぜ諏訪湖は汚くなってしまったのかです。

岡谷西部中学校 高木 夢叶

これは私の孫の作文です。

未来ある大切な子供達に、安全、安心で自由に水遊び出来る水辺を願い始まった活動です。小さな水辺が徐々に大きな水辺へと広がる事を目標に行っています。まだまだ広がり至っていません。

更に子どもの疑問に答えられない私に子どもは笑顔をみせません。

「なぜ諏訪湖は汚くなってしまったの?」に私たち大人は責任をもって答え、自然に戻す努力を示さなければなりません。

ボランティアプロジェクト
あってもいい夢工場

代表 花岡 潤

作業風景



理想の水辺



スワコエイトピークストライアスロン2024大会開催 ～諏訪湖と八ヶ岳の未来をつなごう～ (スワコエイトピークストライアスロン大会運営事務局)

第1回大会(2022年)から組織体制やコースの見直しを行い6月23日(日)に第2回大会を開催することができました。生憎の天候で子どもたちを中心とした地元参加型イベントは中止になってしまいましたが、スタートの号砲がなり1000名の選手が一斉に諏訪湖に入水、泳ぐ姿に大きな歓声が上がった時にはその思いも打ち消され、会場一帯は感動に包まれました。トライアスロンは、天候を踏まえた上でスピードや体調をコントロールし完走を目指す競技ですが、悪天候では心が折れそうになることも往々にしてあるそうです。今大会では選手から「地元住民の応援に勇気づけられ走り続けることができた」と感謝の声も多く聞くことができました。これもボランティア1100名の方々や沿道で応援して下さった方々など多くの方が選手をサポートして下さった賜物です。諏訪地域の放っておけない気質がホスピタリティーに溢れるおもてなしとなり選手に感動を巻き起こしたのだと思います。開催にあたりご支援・ご協力いただいた関係者の皆様には改めてお礼申し上げます。



(諏訪湖へ一斉に入水する選手)



(ゴール地点の様子)

「プレミアム諏訪湖サイクリングツアー」開催 (岡谷市観光協会)

令和6年7月7日(日)に実施したこのツアーは、4月に諏訪湖サイクリングロードが全線開通したことを記念した特別企画であり、諏訪湖で1日を満喫できるモデル的なコースを設定しました。「自転車×カヤック×うなぎ=諏訪湖」をコンセプトに、諏訪湖でできるアクティビティだけではなく食文化にも着目し、地域の文化や風土の発信にも注力しました。また、参加者14名のうち7名は、県外者(東京、神奈川、愛知)であり、はじめて諏訪地域に来られる方もいました。参加者の年齢は50代から70代が中心であり、改めて諏訪湖サイクリングロードがいかに安全で世代を選ばないルートとであるかを実感しました。

来年には諏訪湖スマートインターチェンジの開通を控えており、さらなる観光客の増加が期待されます。

今後も「諏訪湖」という全国的に知名度が高い観光資源を活用し、諏訪地域の観光振興に取り組みたいと思います。



(LAKEHOOD OKAYAにて記念撮影)

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901